2020年度「TKU進一層賞」受賞者一覧

I. 学芸部門

表彰内容	学部・学年	氏名	分野	論文・作品名
学長賞 佳作	経営2年	内田 充俊	テーマ論文	ゼミ選び失敗という危機～ゼミ選びで後悔する学生と満足する学生の差異の研究～
学長賞 奨励賞	経済1年	和田 燎雅	テーマ論文	来たる富士山噴火～備えあれば憂いなし～
学長賞 奨励賞	経済1年	堀内 万梨紗	テーマ論文	新型コロナウイルスがもたらす脅威～大学生の視点から考える将来の危機と期待～
父母の会会長賞 佳作	コミュニケーション4年	植田 啓太	紀行文	憧れの旅を叶える新しいブルートレイン、「WEST EXPRESS銀河」に乗って
父母の会会長賞 佳作	コミュニケーション3年	網野 冴花	紀行文	フィリピンで二十歳になり、大人になり、強くなり。
父母の会会長賞 優秀賞	経済2年	堀田 滉樹	紀行文	私にとっての豊かさとは～福島県双葉郡葛尾村での滞在を通して～
父母の会会長賞 佳作	現代法4年	一戸 悠生	文芸作品等(評論、エッセイ)	私にとって「受験」とは?
父母の会会長賞 佳作	経済1年	和田 燎雅	文芸作品等(評論、エッセイ)	ゆく末は一生き抜く術—
—	経済1年	和田 燎雅	文芸作品等(評論、エッセイ)	試行錯誤の最適解
—	経済1年	和田 燎雅	文芸作品等(小説、映像作品他)	在りし日を～三年の春秋を懐古～

※同一分野にて複数応募の場合、成績最上位の論文・作品を表彰対象とする

II. 資格取得部門

表彰内容	学部・学年	氏名	分野	区分
学長賞、父母の会会長賞	経済4年	大淵 龍也	会計	公認会計士
	経営4年	新藤 悠太郎		
	経済4年	前林 美里		
	経済4年	小澤 一輝		
学長賞、葵友会会長賞	経済3年	永田 凌		税理士
	経営2011年卒	織戸 太郎		
	経済2013年卒	篠原 正平		
	経営2013年卒	山田 広之		
	経営2017年卒	皆川 來希		
学長賞、父母の会会長賞	経営2017年卒	鈴木 結菜		日商簿記1級
	経営4年	前林 美里		
学長賞、父母の会会長賞	経営3年	江波 沙也佳		公認会計士(短答式試験)
	経営2年	村松 凜		
	経済4年	前林 美里		
学長賞、父母の会会長賞	経営3年	鈴木 一誠		税理士(初回の科目合格)
	経済3年	永田 凌		
	経営4年	清水 直哉		
	経済3年	永田 凌		
	経営3年	椎葉 恭作		
学長賞、父母の会会長賞	経営3年	杉井 惇	法科大学院(合格)	
	経営3年	加藤 明奈		
学長賞、父母の会会長賞	現代法4年	森田 大雅	法律	
学長賞、父母の会会長賞	経営4年	小林 由浩	英語	TOEIC900点以上
	経営3年	高橋 唯		
	経済3年	鈴木 太一		
	経済3年	秋本 統守		
学長賞、父母の会会長賞	経営4年	伊藤 彩		TOEIC750点以上
	経済4年	笹原 功輝		
	経済4年	五十嵐 侑己		
	経営4年	新井 俊介		
	現代法4年	佐々木 嶺		
	経済3年	仲村 智也		
	経済3年	阿保 銀志		
	経済3年	菅原 楓		
	経営3年	町田 錬		
	経営3年	渡邊 匠		
	経営3年	黒川 彩花		
	経営3年	真栄田 由香里		
学長賞、父母の会会長賞	経営3年	五味 礼	英検準1級	
	経済2年	佐藤 友輝		
	経済1年	山本 和弘		
学長賞、父母の会会長賞	経営2年	日下部 達也	その他	中小企業診断士(合格)
	経済1年	仲山 侑里		
学長賞、父母の会会長賞	経済1年	佐々木 徹		
学長賞、父母の会会長賞	経営2年	堀井 柊蔵		中小企業診断士(1次試験合格)
学長賞、父母の会会長賞	経営2年	堀井 柊蔵		中小企業診断士(1次試験合格)

表彰内容	人数	分野	区分
CSC運営委員長賞	8	会計	日本商工会議所簿記検定2級
CSC運営委員長賞	17		日本商工会議所簿記検定3級
CSC運営委員長賞	8		法学検定スタンダード
CSC運営委員長賞	6	法律	法学検定ベーシック
CSC運営委員長賞	2		ビジネス実務法務検定3級
学長賞	22	英語	TOEICテスト600点以上
CSC運営委員長賞	1		IELTSスコア5.0
CSC運営委員長賞	10	その他	ITパスポート
CSC運営委員長賞	10		MOS(ワード)
CSC運営委員長賞	11		MOS(エクセル)
CSC運営委員長賞	8		2級ファイナンシャル・プランニング技能士
CSC運営委員長賞	16		3級ファイナンシャル・プランニング技能士
CSC運営委員長賞	5		宅地建物取引士
CSC運営委員長賞	20		秘書技能検定2級
CSC運営委員長賞	1		国内旅行業務取扱管理者
CSC運営委員長賞	1		統計検定3級
CSC運営委員長賞	1		

Ⅲ. 課外活動部門

1. 体育会分野

なし

2. 文化会分野

なし

3. その他の学生活動分野

奨励賞【団体】(学長賞)	TKU Unlimited		1期生である4年生は、先輩からアドバイスを受けることが出来なかった。そういった経験から、大学で培った力や学びを後輩に届けよう就職活動についてや履修相談といったサポート活動をおこなっている。今年度は新型コロナウイルスの影響で初めてオンラインによる開催となったが、オンラインの特徴、危険性などを勉強した上で、企画を進め、例年と変わらない対応ができ、参加者からも高い満足度を得ることが出来た。また、来年度からの活動への基盤になる1年を過ごすことができたのではないかと私達の自信につながるようなことができた。
	経営4年 現代法3年	長野 莉子 松本 拓歩	
奨励賞【団体】(学長賞)	新入生オンライン交流会 ファンリテータ		コロナ禍の中、9/17と10/30に大学が実施した新入生同士のオンライン交流会のために、公募により集められた大学公式ボランティア(ファンリテータ)40名が実施準備から当日の運営まで尽力した。特に、運営の中心を担った3名の学生(経営3年 柄内大圭輝、大学院現代法学研究科修士課程2年 村井里穂、コミュニケーション4年 加藤美香)の貢献度は大きい。この学生たちの力がなければオンライン交流会は成功しなかったと考えられる。その中から、自分の所属するゼミ生や主催するサークルのメンバーに声掛けをして多くのボランティア人員を集め、実施準備の中心となり、当日の司会進行などを行った柄内大圭輝を代表者として表彰したい。なお、この大学公式新入生オンライン交流会以外にも、村井里穂は現代法学部新入生を、加藤美香はCDP新入生を対象に、個人としてもオンライン相談会を行っている。
	経営3年	柄内 大圭輝	
特別表彰(父母の会会長賞)	経済2年	大川 歩夢	第97回箱根駅伝に関東学生連合チームの一員として2日目第6区を走り、オープン参加とはいえ同区間21名の選手中14番目のタイムであった。2020年10月17日(土)に開催された予選会で本選出場校を除く各校トップ16名のうち9番目のタイムの選出であった。本学としては5年ぶり2人目の関東学生連合チームで実際に箱根駅伝で走った選手となった。
奨励賞(父母の会会長賞)	現代法4年	一戸 悠生	株式会社クインテット主催のビジョナリーコンテストにおいて、オンライン審査で全国各地の学生団体の中で1位、プレゼンテーションを含めた審査で3位という実績を残したため。また、個人の記事投稿で審査されるビジョナリー記事コンテストでも優勝という実績を残した。自身、学生団体である日中韓子ども童話交流参加経験者事務局にて副事務局長を3期務めあげた。コンテストでは約半年間かけてオンラインの記事投稿により、自分たちの団体のビジョンなどをアピールし続けてきた。

Ⅳ. ゼミ学外活動部門

1. 社会貢献活動等

優秀団体賞(学長賞)	関 昭典ゼミナール		新型コロナウイルスの影響で海外研修を行うことは叶わなかったが、オンラインでもグローバルパートナーシップを築き上げられることを示し、コロナ禍で落ち込んでいる東京経済大学や社会を元気にしようと考えた。約4ヶ月間に亘るオンライン国際交流プログラムに向けて綿密な準備をし、大きな成功を収めた。また、その他にもSDGs1万字プロジェクトや1年生応援企画等に意欲的に取り組んだ。そこで、以下の点に置いて東京経済大学に大きく貢献出来たと考え、進一層賞に応募した。 ① 例年、SDGsに関連する活動を積極的に進めてきた。経験として内輪に留めるのではなく、外部にも周知してもらうことを目的とし、三井住友理工株式会社「第6回SDGs学生小論文アワード」に応募。 ② ゼミ生/東京経済大学/社会に対して、向上心に起因する活動をゼミ生自身がブログという手段を用いて発信することで、コロナ禍で落ち込んだ状況を打開しようとする前向きな姿勢で希望を抱かせる貢献をした点。 ③4ヶ月間のオンライン国際交流プログラムを開催し、世界中から2000人の参加者の動員を記録した。コロナ禍でも国際交流を諦めず、人との関係が希薄になった世の中に世界規模で繋がる場を設けた点。また、関昭典ゼミナールの活動に躍進を遂げた点。 ④ゼミの公式ホームページにて日本語と英語の2言語で国際交流の活動を紹介し、全世界に向けてSDGsの達成に努める東京経済大学の名を広めることに貢献した。また、オンラインの可能性を訴え、東京経済大学のグローバルパートナーシップを強固なものとした点。 ⑤ オンライン授業が原則となり、縦の繋がりが学生生活への期待に胸を膨らませて入学した1年生の活動が制限されていた。オンライン上でゼミ生、他大生や教授、学長等の方々積極的に議論する場の提供を行うため1年生応援企画を設定した点。また、学内に留まらない人との繋がりを促進した点。
	経営3年	THWE Thet Htar San (トウエ ユッタサン)	
奨励賞【団体】(学長賞)	小木 紀親ゼミナール		ゼミ活動の「TFT(テーブルフットゥー)」により、従前とは異なる新たな活動を実践し、広く一般に本学を知らしめ、社会・地域貢献活動を推進したため。「TFT」の活動内容は毎年変わっており、進化した取り組みが行われている(タイトルは同じでも活動内容が毎年異なる)。具体的には、今年度の活動は次の通り。 * 東経大生協でのTFTランチ販売による2019年度末の寄付を行う(2月) * コロナ禍において「おうちでTFTプロジェクト」をインスタで開催(6月・7月) * 東経大生協にてTFTランチを販売(12月) * 多摩大学アクティブラーニング発表祭(招待ゼミ)での活動報告(12月) などを行い、従前とは異なる活動内容により、社会・地域貢献活動を果たした。
	経営3年	柄内 大圭輝	

2. 学外コンクール等入賞

優秀団体賞(学長賞)	石川 雅也ゼミナール		2020年1月17日～2021年1月19日までの期間において、ゼミでの研究活動に積極的に取り組んだ結果、以下のような成果を上げた。 ・第20回日経STOCKリーグにて、3グループが入選。 ・第16回日銀グランプリにて、1グループが敢闘賞を受賞。 以上は、金融分野における大学生対象のレポートコンテストの中でも、権威ある組織の主催による多くの大学が参加する盛大な大会における成果であり、対外的に非常に大きな成果であると考え。 (日経STOCKリーグについては、石川ゼミとして7年連続の入選(2013年度2チーム、2014年度4チーム、2015年度4チーム、2016年度3チーム、2017年度1チーム、2018年度2チーム、2019年度3チーム)。日銀グランプリについては、石川ゼミは6チームが参加し、そのうちの1チームが決勝大会進出チームに選出され、プレゼンテーションで競った結果、敢闘賞(4・5位相当)を受賞。石川ゼミとして第13回大会から4年連続での決勝大会進出。)
	経済3年	昇 怜音	
奨励賞【団体】(学長賞)	小木 紀親ゼミナール		①西武信用金庫主催「知財活用スチューデントアワード」全国大会に出場した。学内選抜を経て(7チーム)、本学から本選に出場し(11チーム)、広く一般に本学を知らしめた。 ②日本経済新聞「学生対抗円ダービー」において全国268チーム中、第1回目全国12位、第2回目全国5位に東京経済大学・小木ゼミがランクインし、7月末及び8月末にそれぞれ日本経済新聞に掲載されたため。さらに総合順位において5位入賞となり表彰も受け、広く一般に本学を知らしめた。
	経営3年	柄内 大圭輝	
優秀個人賞(父母の会会長賞)	金 鉦玉ゼミナール		第5回(2020)アカウンティングコンペティションに参加し、事例理論研究分野において、zoomを用い、プレゼンテーション形式で発表を行った。 今回、池田彩季(経営4年)、佐藤菜月(経営3年)、山家将(経営3年)の3人の金鉦玉ゼミナールCチームは、予選を勝ち抜き、30チーム中5チームがいける決勝に進出、事例理論研究分野の頂点となる最優秀賞、学生投票で決める学生最多得点賞をダブル受賞した。 2020年4月から約9ヶ月にわたり、「決算期変更」をテーマとして延べ15万社のデータを用い、研究を行った。現在まで会計分野で研究されていなかった企業の決算期、決算期変更に関する実態を明らかにし、発表を行った。
	経営4年	池田 彩季	
奨励賞(父母の会会長賞)	小田 登志子ゼミナール		2020年9月26日(土)に茨城大学でオンライン開催されたJALT SA SIG Conference学生ポスター部門に合格し、大会当日にポスター発表を行った。JALT SA SIG Conferenceの主な使用言語は英語であるため、要旨・ポスター・質疑応答の全てにおいて英語を用いた。指導教員(小田先生)は冠詞の使用等について最低限の助言をしたが、自ら執筆した英語の要旨がほぼそのまま合格した。音声付ポスターの作成や当日の先生方との英語による質疑応答も、一人でやった。 JALT SA SIG Conference学生ポスター部門では学生が自らの海外留学経験を基に提案を行う。西シドニー大学への5カ月の留学経験を基にMeet Upとよばれるアプリを用いてオーストラリアの人々と交流を持つ方法を提案した。学生が英語圏に留学し、友人関係が語学学校の中に留まり現地の人々と友人になるケースは少ないことがしばしば指摘されており、この発表は他の学生の参考になる内容として評価された。 今年度のJALT SA SIG Conferenceはオンライン開催となった影響で、世界中から応募があり、発表の質が例年になく高くなった。学生ポスター部門に合格したのはわずか3名で、他の2名はアメリカでのインターンシップ経験、文科省「ビタテ」派遣学生としてヨーロッパとオーストラリアで難民支援を行った経験について発表した。学生ポスター発表者の3名は全員日本育ちですがほぼ不自由なく英語を話し、質疑応答の内容も高度であった。
	経済3年	鈴木 太一	